

銘柄分析レポート：飲食業の元気企業

1 はじめに

居酒屋「塚田農場」「四十八漁場」を直営展開するAPカンパニー（3175）がIPOを果たしたのは2012年9月。

色々と調べているうちに「この会社は面白そうだ」と直感しました。店舗を視察した際も、並のチェーン店よりワンランク上の料理と接客に感激したものです。

その一方で「業界大手が模倣してくるのは、ほぼ間違いない」とも確信しました。参入障壁の低い飲食業では、人気店を模倣するパクリが日常茶飯事だからです。

競合他社は、私が想定していた以上に素早く追随します。モンテローザ（非上場）が「山内農場」、チムニー（3178）が「竜馬軍鶏農場」を立ち上げ「〇〇農場」が乱立しました。

特に「山内農場」は完全なるコピーで、一般人には「塚田農場」との区別がつかないはずで

競争激化に加え、多店舗展開を急いだAPカンパニーの店舗は、徐々にオペレーションレベルが低下していきます。

「以前に比べ、味も接客もイマイチだな」と感じるが増え、セミナー後の懇親会で利用する機会も減って、いつの間にか足が遠のきました。

業績も急速に伸び悩みます。2016年3月期決算では大幅減益となり、8月10日に発表された2017年3月期第1四半期決算では営業赤字に転落しました。

★APカンパニー 株価チャート（週足）

